

# 南三陸町社会福祉協議会が推進する「基本理念」

だれもが地域で安心して暮らしていくためには、それぞれが地域の福祉課題に目を向け、地域に合った活動を展開する必要があります。地域福祉活動を通じて支援を必要とする人を発見し、必要な支援につながるよう、住民一人ひとりが「我が事」として捉え、重層的・包括的な支援体制構築に向け、南三陸町とともに取り組んでいます。


すべての住民が「安心して暮らせるまち」の実現に向け、生活や権利を守ることは、地域福祉の重要な取り組みです。そのためには、日常生活自立支援事業（まもり〜ぶ）において、認知症の方や障がい（知的・精神）のある方に、福祉サービス利用に関する相談・助言、それに伴う日常的な範囲の金銭管理や生活変化の見守りを行い、地域において自立した生活が送れるようサポートする必要があります。これらについては、課題を抱える住民へ継続的な支援を行いながら、判断能力の変化に対応し必要があれば「成年後見制度」へと繋いでいきます。

また、重層的支援体制の整備について、市町村全体の支援機関や地域の関係者がつながりながら、複雑化・複合化したニーズへの支援体制を構築することを目的に「属性を問わない相談支援」「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つをコンセプトに一体的に実施することが必要となります。そのため、社会福祉協議会として関係機関・地域住民のプラットフォーム機能を発揮し個別支援に対応する包括的支援のために行動します。

このようなことを踏まえ、地域福祉活動計画は町と連携を図りながら推進するため、町地域福祉計画と基本理念を共有し住民目線の関わりと住民主体の本質を大切に、次のように掲げます。



**説明① エンパワメント**  
 ~仮設に住む高齢者が近隣の住民を訪問「滞在型支援員」の姿~  
 平均年齢74歳の方々が、朝夕の2回仮設住宅団地を周り「変わりないですか」「何してだの〜？」と、声がけていました。その役割が終わっても、何かあるたびにお手伝いを申し出ています。こうした姿勢は後のほっとバンク活動、地域づくりの底上げにもつながり、エンパワメントと呼ばれています。



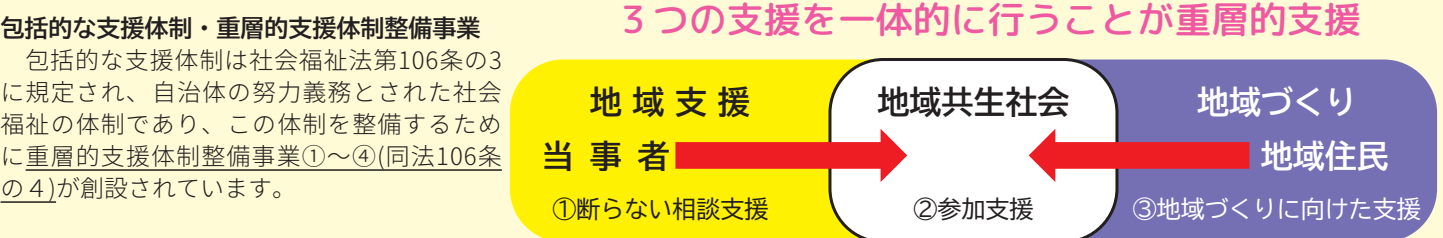
▲ほっとバンク活動のきっかけになった滞在型支援員の活動

# 南三陸町が推進すること こころプラン①

2025年4月開始予定の**重層的支援体制整備事業の推進**について、複雑化・複合化する生活課題に対し、南三陸町と連携しながら協議を進めています。この事業の推進については、東日本大震災からこれまで13年という長期間にわたり、被災者生活支援事業の継続により仮設住宅や災害公営住宅において多くの住民の暮らしを支えた担い手たちが2025年3月末を持ってその任務を終えることから、福祉専門職の担い手を新規事業に充て地域福祉の更なる充実を図ります。

また、災害公営住宅においては、その特質に特化した構造、暮らしぶりにより、独居世帯の増加や高齢化、一人親、生活困窮世帯が顕著となり、認知症状により在宅サービスを活用しながら暮らす高齢者や障害者も多い現状であります。近い将来、住宅の空室が課題になることも予測され、役員の成り手や共益費の在り方、集会所の利用方法についても関係機関と交えた対策を講じることが求められます。

## 重層的支援体制整備事業の整備を進めます。



- ①相談者の属性、世代、相談内容に関わらず、包括的相談支援事業において**包括的に相談を受け止める**。受け止めた相談のうち、複雑化・複合化した事例については多機関協働事業につなぎ課題の解きほぐしや関係機関の役割分担を図り、各支援機関が円滑な連携のもとで支援できるようにする。
- ②長期にわたる引きこもりの状態のある人など、自ら支援につながる事が難しい人の場合には**アウトリーチ等を通じた継続的支援事業**により本人との関係性の構築に向けて支援をする。
- ③相談者の中で、社会との関係性が希薄化しており、参加に向けた支援が必要な人には**参加支援事業**を利用し、本人のニーズと地域資源の間を調整する。
- ④その他、地域づくり事業をとおして住民同士のケア・支え合う関係性を育む他、多事業と相まって地域の社会的孤立の発生・深刻化の防止を目指す。



これらについて南三陸町は、2023年10月より災害公営住宅の合鍵の管理を実施することになり、一定の条件下のもと個々の申請により鍵の保管事業が始まりました。しかし、仕組みが出来ても理解の低下や条件に合わない等を理由に、運用にはまだ時間がかかるものと推測でき、社会福祉協議会として住民の声を聴きながら不安の払拭に尽力している状況です。

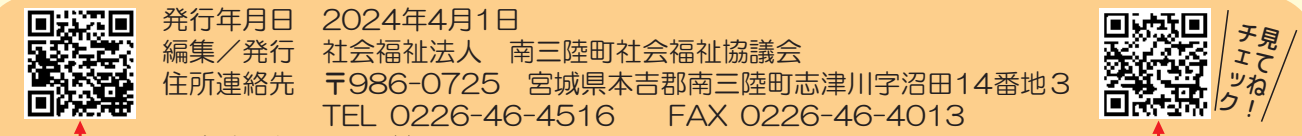
このような状況を鑑み、これまで各自治会活動や地域の個別課題に注視してきましたが、複合多問題世帯への対応や、孤独・孤立への対策、保健医療の連携に加え、教育・居住・就労・まちづくりをはじめとした広範な分野との連携が求められるため、重層的支援体制整備事業を南三陸町と共に推進していきます。社会福祉協議会の柔軟性、機動力を最大限に活用し、プラットフォーム機能を発揮することで、活動ノウハウを地域に還元していきます。

# 南三陸町が推進すること こころプラン②

## 成年後見制度を視野に 日常生活自立支援事業(まもり〜ぶ)の推進

社会福祉協議会が実施する日常生活自立支援事業「まもり〜ぶ(まもる・びりーぶの造語)」は、認知症状や障がい(知的・精神)等、何らかの理由により日常生活に不安をお持ちの方の相談に応じ、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、日常的な金銭管理や郵便物の確認等といったサポートを行います。まもり〜ぶは、個々の契約に基づき社会福祉協議会と地域の生活支援員がお手伝いしています。  
 【現在の利用者 16人 生活支援員 8人】令和6年2月末現在

発行年月日 2024年4月1日  
 編集/発行 社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会  
 住所連絡先 〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田14番地3  
 TEL 0226-46-4516 FAX 0226-46-4013  
 公式サイト http://www.minamisanriku-syakyoo.or.jp  
 facebook ツイッター からご覧ください。




## 南三陸町社会福祉協議会が推進する活動の「本論」

私たちの社会では、近隣の方々の連帯感や相互扶助意識の希薄化していることを背景に、支援が必要な人たちを地域全体で支える「地域福祉」の推進が求められています。特に、東日本大震災を経験した今では、ますますその重要性が認識されてきています。

これまでの福祉サービスは、特定の人のためのものと思われてきたために、「福祉」というと高齢者や障がいのある人などのためにあるというイメージを強く持っている人が多かったかもしれませんが、しかし、年齢や障害の有無に関わらず、すべての町民が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、病気になったり、介護が必要になったり、子育てで悩んだりするなど、日頃の生活の中で手助けが必要になるときが多々あります。

私たちが暮らす地域社会の現状においては、専門機関、地域住民、地域福祉活動団体、ボランティアなど地域に関わるすべての方々が協働し、手助けが必要な人を支え励ましていく仕組みづくりが必要不可欠なのです。

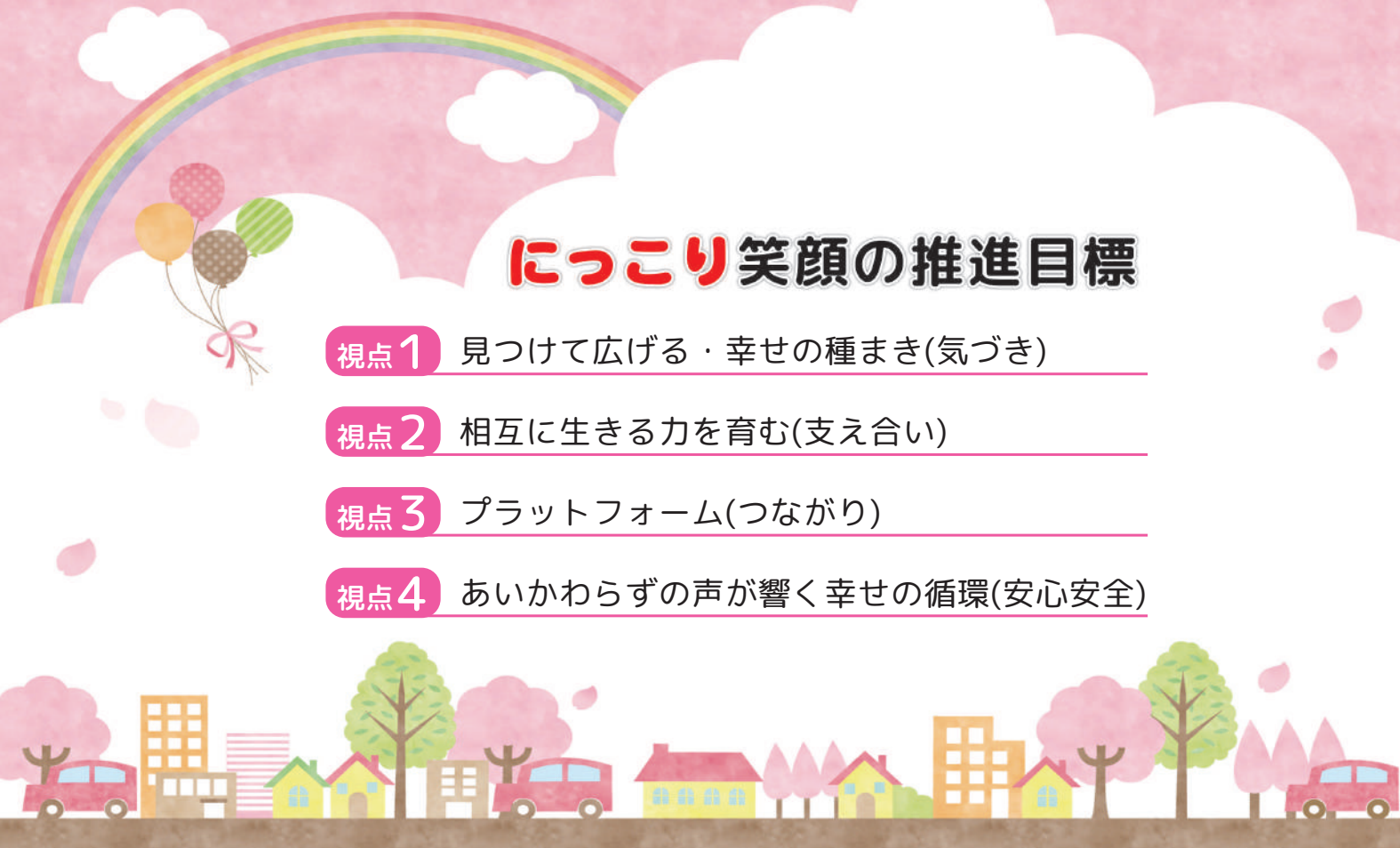
こうした仕組みを皆さんと共に機能させていく為に、私たちは、地域福祉を進める上での町全体の理念や仕組みとなる**地域福祉活動計画**、それを実現・実行するための中核をなす『**地域福祉活動計画**』をアンケート調査、住民懇談会等の町民の声を反映させ、第2期地域福祉活動計画を策定いたしました。



# にっこり ほっこり こころプラン

～第2期南三陸町社会福祉協議会地域福祉活動計画～





# にっこり笑顔の推進目標

- 視点1 見つけて広げる・幸せの種まき(気づき)
- 視点2 相互に生きる力を育む(支え合い)
- 視点3 プラットフォーム(つながり)
- 視点4 あいかわらずの音が響く幸せの循環(安心安全)



## ほっこり事業展開

…福祉とはあらゆる世代の隣にあるもの…

だれもが自分らしく暮らすことは全ての住民の願いであり、その実現に向けて手をこまねいては大きな震災を経験した町とはいえません。5,000人という大きな人口減は様々な所で影響し、高齢化がもたらすマイナスのイメージばかりが注視されがちな状況ですが、私たちは南三陸町に住む住民として、**今生まれる命に責任を持ちながら故郷の命をつないで行く責務**があります。

先人が紡いだ人と人のつながりを絶やすことなく、これからも自然と共生し、住民相互の生きる力を育て合う姿を創造し、基本指針1から4をもとに次のとおり活動します。

法人運営事業	
気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮者自立支援制度に基づく日常的な困りに応じ、生活資金の相談、貸付への対応、フードバンク事業の充実を図り、自立の道づくりを行う。</li> <li>個別のケースに対応するために、関係機関との定期的なケース会議を実施し、本人を交えた今後の方針を検討していく。</li> </ul>
支え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>各関係機関との横のつながりによる個別課題の解決に向け連携して取り組む。</li> <li>各種団体運営に対する継続的かつ積極的な関わりはもとより個人が主体性を持って事業に取り組めるようサポートする。</li> <li>日常生活自立支援事業(まもり〜ぶ)を活用しながら地域で暮らしやすい環境づくり、場の提供を行う。</li> <li>障がいがあっても地域で自分らしく暮らすために、地域活動に参加できるよう後方支援を行う。</li> </ul>
つながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内外に関わらず、アンテナを高くし、様々な情報や人との交流をとおしつながりをキャッチしていく。</li> <li>各団体構成員が主体性を持って楽しく交流できるよう、また住民どうしがつながっていけるよう、運営のサポートを行う。</li> <li>普段の住民との関わりが災害や事態を未然に防ぐ手立てであることから、地域住民の交流の機会を推進する。</li> <li>社会福祉協議会のネットワーク機能により住民の活動の輪を広げることで、自分事の地域づくりの意識向上につなげていく。</li> </ul>
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協職員の意欲向上、スキルアップのため、研修等の機会に積極的に参加し、資格取得のための環境づくりに寄与する。</li> <li>職場内のコミュニケーションを大事にし、報告・連絡・相談の徹底を図っていく。</li> <li>相互に承認し合える職場環境づくりを行い、職員自身が充実し、適切な住民サービスが提供できるよう職員の声に対峙していく。</li> <li>社会福祉協議会としての機動力を存分に発揮し、突発的な事態へ柔軟な対応に尽力し最善を尽くす。</li> </ul>



# にっこり1 南三陸町地域福祉計画の視点 見つけて広げる・幸せの種まき(気づき)

東日本大震災前の南三陸町は、近所の人たちが勝手口から出入りするようなお茶飲み会やお裾分けが日常の暮らしの姿でした。こういった普段からのお付き合いがある事で、ご近所の関係性が途切れることなく代々続き、平時の関係性が保たれている、これが私たちの町南三陸町の生活文化です。

そんな当たり前の暮らしの中に突如起こった東日本大震災という悲劇は、一瞬のうちに町を、地域を崩壊し、これまでのなりわいが全て失われてしまいました。住まいを失った住民は避難所を求め、近親者を失った住民は必至で安否を確認し、明日が来るこ



▲「変わらないですか〜？」



▲生活支援員の訪問の様子

と信じる余裕さえもない喪失感に苛まれました。普段から近隣のつながりがあった地域であっても、大災害という現状には太刀打ちできない状況が続き、各家庭の実情も相まって一時的に地域コミュニティが失われました。

しかし、南三陸町民は立ち止まってばかりはいませんでした。これまでの暮らしを取り戻すために、多くの人の手と知恵を借りながら、仮設住宅や避難先で集いの輪を広げ、忘れていた楽しみや笑顔を取り戻していきます。震災からの歩みは平坦な道ではなく、多くの犠牲を生みましたが、それでも住民が希望を失わず、これまで培っていた地域力を結集し、少しずつ前向きな輪を広げていきました。

社会福祉協議会が受託した被災者生活支援事業では、当事者性を持った視点での関わり方、相手の想いを受容し共感することを繰り返しながら、住民との信頼関係を構築してきたことで、職員は住民の想いに気付く感性が培われたのです。これらの振る舞いは、その先の実践へとつながる大切な経験となりました。この過程こそが、幸せの種まきであり、人の人生も自分の人生も彩りある豊かなものになることを学んだのです。

# にっこり2 南三陸町地域福祉計画の視点 相互に生きる力を育む(支え合い)

地域で暮らすうえで、支え合いはとても重要な役割を担っています。相手のことを大切に思い「力になりたい」という意識とその関わりに対して「ありがとう」と感謝する両者の思いが織り合っ

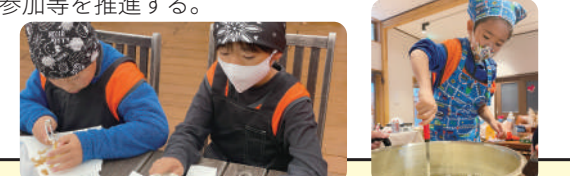
て、はじめて構築される「お互いさま」の関係が、支え合いの柱となります。お互いさまには、二つの時間軸があります。一つは、日常の中で行われるという横の時間軸の支え合いです。もう一つは、若い時には支える側で、歳を重ねたり、障がいを持った時、または子育てなど助けが必要になった時に、支えられる側になるという、縦の時間軸での支え合いです。

ある地域では毎日の体操や縁側でのおしゃべり、お茶のみの場でしばらく見かけない人を「〇〇さん、しばらく見てないけど大丈夫かな？」「帰りに声掛けてみっべし！」などと心配し、集いの場が小さなケア会議になっています。さらには、精神に障がいを抱えた住民や、認知症状のある住民を周りの住民が理解することで、他人事ではなく自分事としての関わりになり、その気持ち

は、当事者やご家族にも伝わり、結いを生み、人と人とのつながりという「感謝の循環」が体感出来ています。また、デイサービスに通所している住民が、通所日以外の日に地域の体操やお茶っ会に参加しています。住民はごく自然なこととして捉え、公的介護サービスを使っても住民同士の交流が切れ目なく続き、地域で自分らしく暮らし続けることを可能にしているのです。このような住民による平時からの振る舞いや自然なつながり、支え合いが相互の生きる力となり安心な暮らしにつながっていきます。



地域福祉事業	
気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>えんがわカフェやちいさなたがい市の開催により普段の暮らしの中の声を聴く。</li> <li>サロン事業の充実と横のつながりの強化を図る。</li> <li>イベント等によるきっかけづくり楽しみづくりを率先。</li> <li>あらゆる世代や立場を包摂し誰もが地域社会とつながる機会を創る。</li> </ul>
支え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほっとバンクによる地域住民の力を活用し近隣でのさり気ない支え合いを推進する。</li> <li>ほっとバンク協力店事業所について、町内全ての事業所が加入出来るよう推進する。</li> <li>虹のバトン事業を活用し、制度の狭間に悩む住民や家族へのサービスにつなげる。</li> <li>地域でゆるやかにつながるために、担い手の養成を実施する。</li> </ul>
つながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉健康まつりにおける実行委員会事務局を担うことで、町内外事業所・企業との横の連携を保ち、調整機能を発揮する。</li> <li>様々な個別に対する課題について関係機関の協力要請を行い連携の軸となる。</li> <li>町内外の企業とのつながりにより社協理解度が高まり、事業への支援や協力が得やすい状況となり、住民サービスの向上に寄与できる。</li> <li>社協内部の地域福祉会議に積極的に参加し、介護保険事業の現状を知り、情報共有を図ることで地域住民への支援へ有効に生かしていく。</li> </ul>
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆるやかなつながりは平時から。挨拶、お裾分け、地域の奉仕活動への参加等を推進する。</li> <li>子どもを大事にする地域づくり、世代間の交流を意識した、通学時の見守り等、無理なく継続出来る活動の定着を図る。</li> <li>一人のつぶやき、課題をみんなのものにする気持ちの醸成、話し合いの場づくり、地域づくりのあれこれ・ほっとバンク研修会・自主活動グループ交流会等の積極的開催により、住民の気持ちを底上げする。</li> </ul>



# にっこり3 南三陸町地域福祉計画の視点 プラットフォーム(つながり)

地域には、身体的・精神的・社会的状況の異なる様々な人が暮らし、個人や地域が抱える課題は多様化・重複化しています。これらの課題を乗り越えるためには、地域住民、行政、社会福祉協議会、関係機関がそれぞれの強みを活かし、互いに手をつなぎ協働で解決に向け取り組む必要があります。

社会福祉協議会結の里には、お子さんから高齢の方まで、誰でも気軽に立ち寄ることが出来る「えんがわカフェ」を併設しています。平日頃から、地域住民相互の交流を大切にしているみんなの居場所「社会的空間」となり、小さな困りごとから少し心が重くなるような課題まで、同じ目線で思いを伝え合える空間づくりに努めています。

また、少子高齢化が進む南三陸町においては、今後ますます多職種との連携、関係づくりが必要となります。こうした現状に対して社会福祉協議会は、その機動力と柔軟性を基盤として、様々な社会資源の調整(マネジメント機能)を発揮することが求められます。町内外における多職種・他団体・企業等との横断的、縦断的なつながりを構築し、住民がここに住んで良かったと思えるつながりづくりに注力し、プラットフォーム機能を担う役割と意義があります。私たちは、会議というテーブルを挟

んだ場だけではなく、様々な機会を生かして住民に身近な場所でもプラットフォームづくりを行っています。

震災後から、町内外の福祉関係者が一堂に会し実施する福祉健康まつり、事業所間の横のつながり、連携はもろろんのこと、地域住民に福祉活動を知っていただき、児童生徒への福祉共育の場にもなる、貴重な機会になっています。2023年11月撮影 4年ぶりだよ全員集合！  
～笑・喜・愛・会～実行委員長 千葉 宏志 (小規模多機能ホーム南三陸)



▲南三陸町福祉健康まつり2023 実行委員のみなさん

# にっこり4 南三陸町地域福祉計画の視点 あいかわらずの音が響く幸せの循環社会(安心安全)

性別、年齢、収入の多い少ない、障害の有無し等に関わらず、だれもが自分らしく活気のある暮らしの営みを実現する為の様々な活動や制度を「ふくし」と呼びます。

福祉は生活に困った人や障害がある等、何らかの不便さを持つ方々だけが対象ではなく、全ての皆さんに関わることです。様々な社会福祉制度を下にして公的サービスを使うことは、地域住民にとって誰もが等しく使える平等の権利であり、同時に、こういった福祉基盤に拠るだけではなく、近隣・地域が「支え合い、つながり合う文化」こそ地域共生社会が目指す姿であり、私たちが目指している「当たり前」の姿です。

私たち南三陸町民は東日本大震災を経験し、有事の際のつながりを当てるのではなく、平時から近隣や地域との関わりを持つことが大切であり、非常時の対応にとってかけがえのない財産になることを学びました。人は一人で生きることではできません。だれかの力を借りたり、時にはだれかの力になったり

する「幸せの循環」の大切さを誰よりも知っています。

同時に私たちの町、南三陸町は、全国各地から支援に訪れる15万人以上のボランティアを受け入れたことで、人の心の温かさや励ましの気持ちに触れることも出来ました。震災直後に身動きが取れない被災者にとってボランティアの姿は希望の光となりました。このことがのちに住民同士の**＊エンパワメント(P5説明①)**にもつながり、自分たちの地域を自分たちで盛り上げようとする機運の高まりから、現在のほっとバンクという形を見つけ、住民自らが安心安全のために動き出しています。



▲こどもたちのだがしやさん



▲みんな食堂のお届けです

介護保険事業	
気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の課題を見る視点から全体を見る視点へ転換し利用者のニーズに気づく。</li> <li>利用者の立場に立ち、本人ができることできないことを見極め思い込みや決めつけのないケアの提供を行う。</li> <li>個々の職員の気づきやスキルを高める研修会を企画し、実践する。</li> </ul>
支え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>住み慣れた地域で暮らし続けるために、制度だけで対応できない様々な課題を、地域の視点で支え合えるよう地域住民や関係機関と連携する。</li> <li>利用者及びご家族の視点で想いに寄り添い、適切な福祉サービスの提供を進め、生きる力を育む。</li> <li>介護予防・生活支援サービスにより、こぼれることの無いよう、ほっとバンク等の互助体制をとり地域で支えていく体制を整える。</li> </ul>
つながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の関係機関と連携し介護保険制度を広く町民に知ってもらう場づくり、環境づくりを行い、地域福祉活動を推進する。</li> <li>利用者を取り巻く地域住民と情報共有し、事業所を地域交流の場として活用するなど、開かれた介護保険事業所を目指す。</li> <li>生活に楽しみや生きがいを見いだせるよう地域住民やボランティア団体と連携し社会交流の場となる提供を図る。</li> <li>社協内部の地域福祉会議に積極的に参加し、地域福祉活動の現状を知り情報共有を図ることで、利用者への支援へつなげ有効に生かしていく。</li> </ul>
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者・家族等の声を傾聴しながら信頼関係を構築する。</li> <li>利用者、職員間等において常に笑顔で挨拶出来るよう接し相手に寄り添ったコミュニケーションを大事にする。</li> <li>利用者の在宅生活が維持できるように、心のこもったサービスの提供、「心に笑顔、声に笑顔」を心がけ、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの思いを大切にしながらサービスの提供を図る。</li> <li>心地よい空間をおもてなしするために自身の心と向き合い、思いやりの心を持ち対応する。</li> </ul>